

4-1-3 女性総合外来

1.概要、特色

当センターの診療の大きな柱である母性医療の一環として、女性が抱える“こころ”と“からだ”の悩みを気軽に相談できる『女性総合外来』を平成15年7月に開設した。婦人科、不妊診療科、育児心理科、母性内科の医長4人が女性外来を担当している。近年、“女性外来”が注目され全国に次から次へと開設されているが、当院の女性総合外来の特徴として時間をかけて問診・カウンセリングのみ行うこと、男性医師も担当していること、予約は専属看護師が担当し簡単な問診をして振り分け業務を行っていることがあげられる。11階の華やかな空間で一人あたりの診療に50分をかけた大変贅沢な診療をおこなっている。受診者に診療後記入してもらう満足度調査の結果から、利用者のニーズにあった医療の提供が行われていると考えている。

2.診療活動、研究活動

2.1 診療の実態

診療は、火曜日の午後を婦人科医長と母性内科医長が担当、金曜日の午前は不妊診療科医長と育児心理科医長が担当している。また、一部は不妊診療科医師と育児心理科の医師が合同で担当している。受診理由がセカンドオピニオンの場合は当外来で完結するが、そうでない場合は院内外の適切な科・医師を紹介している。すなわち、当外来は主にセカンドオピニオンとしての役割と、母性医療の窓口としての役割を果たしていることになる。

2.2 患者数

7月29日のオープンだったため7月の受診者数は極端に少ない。2月、3月は婦人科医師が転職のため休診が続き受診数が少なかった。当初は新聞などのマスコミに取り上げられたため1ヶ月程度待たなければならなかったこともあり、キャンセルが多かった。最近はホームページで検索してアクセスするケースや、当院に通院しているこどもの母親がパンフレットなどで当外来を知り、受診するケースが目立ってきている。また、当初はさまざまな年代のさまざまな主訴の受診者が多かったが、最近は当院の特性に合った生殖年齢の女性の割合が増えてきている。

月別・担当者別患者数	婦人科	母性内科	不妊科	育児心理	不妊+ 育児心理	合計
2003年7月	3	2	0	0	0	5
2003年8月	9	9	13	10	2	43
2003年9月	9	9	10	7	1	36
2003年10月	11	7	7	10	0	35
2003年11月	8	9	5	5	5	32
2003年12月	8	6	10	5	1	30
2004年1月	4	5	10	6	3	28
2004年2月	1	8	8	11	0	28
2004年3月	0	12	8	8	0	28
合計	53	67	71	62	12	265

2.3 研究活動

女性医療の基盤整備に関する研究として、他施設の女性外来担当者とともに女性医療、女性外来はいかにあるべきか、そのためにはどのような基盤を整備したらよいのかという点について研究を行っている。

初年度の本年は女性外来受診者の求めるニーズと疾病の状況を調査した。さらに問診のみの診療ではたして効果はあるのか、自分たちが行っているカウンセリングは妥当なのかを評価する方法を検討している。